

老年内科の開設について

診療內容

老年内科は、①老年病と②高血圧が専門です。

①高齢（おおむね65歳以上）になると、同時にいくつもの病気にかかっていたり、老化に伴って身体機能が低下しているために病院の個別診療科では対応が難しい場合があります。そのような患者さんは地域にかかりつけ医（開業医）が必要です。当科は市立伊丹病院とかかりつけ医の橋渡しを担当します。地域の先生方と連携して、必要な検査を行なったり、治療方針を相談したりします。

②高血圧患者さんの中には、なかなか血圧が下がりにくい方がおられます。そのような場合には、年齢にかかわらず、他の病気が原因で血圧が上がっていないか調べる必要があります（二次性高血圧）。当科はそのような病気の診断・治療を行います。また、原因不明の発熱、むくみ、ふらつきなどの精密検査も、年齢にかかわらず、当科にご相談ください。

☆ 医師の人事異動がありました。

採用		退職	
平成23年4月1日		平成23年3月31日	
外科主任部長	村田 賢	小児科部長	有田 耕司
老年内科主任部長	中村 好男	外科部長	木村 文彦
小児科(感染対策室主任部長)	有田 耕司	歯科口腔外科医長	藤高 英晃
産婦人科医長	江原 千晶	消化器内科副医長	荒木 浩士
消化器内科医長	荻山 秀治	整形外科副医長	塩見 俊行
整形外科副医長	川島 邦彦	歯科口腔外科医員	高岡 洋生
老年内科副医長	島岡 泉	麻酔科非常勤	田宮 みゆき
歯科口腔外科副医長	須澤 佳香	呼吸器内科専攻医	真野 圭司
外科医員	野口 幸藏	麻酔科専攻医	岡林 正尚
循環器内科医員	南坂 朋子	産婦人科専攻医	原田 裕子
小児科医員	山田 博之	整形外科専攻医	上田 譲
消化器内科医員	満田 千晶	外科専攻医	野口 幸藏
歯科口腔外科専攻医3	中村 寛之	循環器内科専攻医	南坂 朋子
糖尿病内科専攻医2	星 杏	消化器内科専攻医	岩崎 竜一朗
整形外科専攻医1	中井 隆彰	臨床研修医2	大石 崇史
呼吸器内科専攻医1	三上 高司	臨床研修医2	中井 隆彰
整形外科専攻医1	劉 納新	臨床研修医2	中村 香絵
小児科専攻医1	川村 孝治	臨床研修医2	松田 未来
臨床研修医	樺原 優子	臨床研修医2	三上 高司
臨床研修医	小竹 悠理香	臨床研修医2	和田 慶太
臨床研修医	鈴木 啓史	歯科臨床研修医	金住 雅彦
臨床研修医	三山 彬		
臨床研修医	村松 史隆		
臨床研修医	安田 直弘		
歯科臨床研修医	坂根 有紀		
平成23年7月1日			
副院長(呼吸器内科)	閔 庚燁		
副院長(消化器内科)	筒井 秀作		
老年内科医長	松尾 安希子		
麻酔科医長	藤寄 江美子		

～ 保険医療機関では毎月、患者様に保険証の提示をお願いしております。月初めには初診受付で保険証の提示、確認にご協力くださいますようお願いします。～

市立伊丹病院広報誌

すこやか

| 第38号

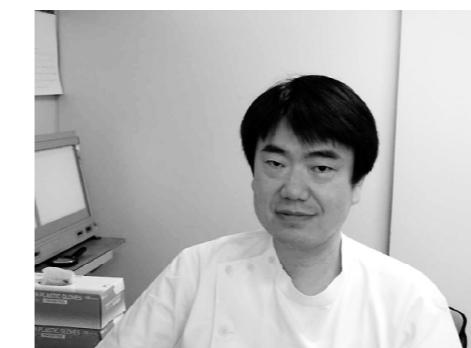
2011/9/

編集：市立伊丹病院患者サービス向上委員会

編著：市立伊甸病院患者
發行：市立伊甸病院 TEL 072-777-3773

执行：而立伊丹病院 TEL 072-777-
<http://www.boen-itami.hycog.jp/>

乳がんの予防と検診について



今日わが国において乳がんを患う人の数は上昇し続けており、また、乳がんの死亡率も増加し続けています。2006年の女性の乳がん死亡者数は11,177人もありました。

これらのことばは最近多くの人々に認識されてきています。そして、「いったいどのようにしたら、乳がんができるても大事に至らずに治るのだろうか？」と心配し悩んでいる方々も多いことでしょう。

乳がんの危険因子としては、年齢（40歳以上）、乳がんの家族歴、乳がんの既往、高齢初産、未婚、肥満（50歳以上）、早い初潮、遅い閉経、動物性脂肪過剰摂取、アルコール飲用、喫煙などがあげられます。

一方、乳がんの予防法としては、肥満の防止（特に50歳以上）、動物性脂肪の摂取制限、多量飲酒の回避、禁煙、適度な運動などがあげられます。また、大豆・イソフラボンの摂取は乳がんのリスクを減少させるのではないかと注目されていますが、そう結論づけるにはまだ十分な証拠はありません。逆に、イソフラボンを含めた食品サプリメントは大量に服用すると有害である場合があり、がん予防の観点からは勧められません。乳がんの危険因子は避けようのないものもたくさんあり、予防するのには限界があります。

そこで次に考えるべき事は、乳がんの早期発見、早期治療であり、そのためには乳がん検診が有効です。特に、マンモグラフィー（乳房を圧迫して撮影するレントゲン検査のこと）による検診はしこりとして触れない小さな早期乳がんを発見することが可能で、厚生労働省の調査研究では、40歳以上の乳がん検診で視触診とマンモグラフィーの併用は死亡減少効果があるとされ、2005年から導入されています。

当院でもマンモグラフィー検診を実施しております。視触診の乳がん検診を実施しているかかりつけのクリニックから、病診連携により直接、当院のマンモグラフィー検査を予約することができるので、ご利用されることで、不安が解消されることと思います。

外科部長 兼 外来化学療法室部長（日本乳癌学会 乳腺専門医）馬場 將至

兵庫県指定がん診療連携拠点病院

当院は平成22年9月3日に兵庫県知事より「兵庫県指定がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。指定要件には診療体制として、我が国に多いがんについて質の高い医療(集学的治療及び標準的治療等)の提供ができること、緩和ケアの提供ができること、地域医療機関との連携協力体制を整備すること、セカンドオピニオンの提示体制があること等があげられています。また診療従事者には医師をはじめ看護師、薬剤師、その他コメディカルスタッフの癌に係わる専門的な知識及び技能を有していることがあげられています。

当院では従来より、がん治療認定医、検診マンモグラフィー読影認定医、肺がんCT検診認定医、がん化学療法看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、がん薬物療法認定薬剤師、がん専門薬剤師など様々な分野でがんのエキスパートが診療にあたっており、緩和ケアチーム、呼吸器ケアチーム、がんリハビリチーム等によるチーム医療の提供、がん相談支援室による相談窓口を配置し、質の高いがん診療を提供しています。また24時間救急体制によるがん救急への対応、常勤の放射線治療専門医による緊急放射線治療への対応等、市内外の多くの医療機関から信頼をいただいております。

また地域の医療従事者を対象に緩和ケア研修会を毎年開催し、市民の皆様には「市民公開講座～みんなで学ぼうがん診療～」を毎年数回実施しています。

このように地域の中核病院として、近隣の医療機関等と連携を図りながら、今後も質の高いより良い医療を提供してまいります。



先進医療について

当院では、日本医学会の下に活動する各専門学会や研究機関が主催する高度な医療技術が要求される分野で、厚生労働省が認める新たな治療法の研究にも積極的に参加しています。

主な対象は消化器がんで、胃がんを患つおられる患者さんに対して、がんの制御を目的とした安全かつ効果的な抗がん剤の使用方法の研究がこれに相当します。

また、早期大腸がんに対する内視鏡治療への取り組みなども検討中です。

高度医療(第3項先進医療)承認のお知らせ

当院は平成23年2月1日より下記高度医療の実施が承認されました！

技術名：パクリタキセル腹腔内反復投与療法

適応症：胃切除後の進行胃がん

(当院で手術を受ける患者さん)

厚生労働省より上記の高度医療の承認を受けた医療機関は7病院です。

1. 名古屋大学医学部附属病院
2. 市立伊丹病院
3. 東京慈恵会医科大学附属柏病院
4. 神奈川県立がんセンター
5. 近畿大学医学部附属病院
6. 千葉県がんセンター
7. 九州大学病院



高度医療って何？

厚生労働省が定めた「高度医療（第3項先進医療）」という制度は、保険との併用が認められていない新しい医療技術（治療法）を開発・評価するために作られたものです。この研究で用いるパクリタキセル（薬の名前）の腹腔内投与という治療法がそれに該当します。（治験ではありません。）

保険で認可されている手術や抗がん剤治療と、認可されていない先進的な治療を同じ患者さんに行なうと、すべての治療が保険適応外となり、膨大な費用が患者さんの負担になります。しかし、高度医療として承認されれば、保険診療と併用することができます。

高度医療の詳細は、がん相談支援室または外科外来にお尋ねください。